

## 会議録

会議の名称	令和4年度 第2回茨木市社会教育委員の会議
開催日時	令和5年2月16日(木) 午後6時30分～午後7時40分
開催場所	上中条青少年センター3階会議室
議長	三川俊樹
出席者 (予定)	今西幸蔵 桑本由利子 小河尚司 岩城大将 古川美奈子 三川俊樹 (計6人)
欠席者	藤田真由美 森脇護 稲田 勲
事務局職員	岡田祐一 教育長 小田佐衣子 教育総務部長 中井誠 市民文化部長 吉崎幸司 教育総務部社会教育振興課長 木下典子 教育総務部歴史文化財課長 吉田典子 教育総務部中央図書館長 今西雅子 市民文化部文化振興課長 坪田建二 市民文化部スポーツ推進課参事 他職員 (計11人)
議題(案件)	令和5年度社会教育の努力目標(案)について
配布資料	会議資料

社会教育振興課長	<p><b>【開会】</b> これより令和4年度第2回社会教育委員の会議を開始する。</p>
教育長	<p><b>【あいさつ】</b> 日ごろは本市の教育行政の推進、とりわけ社会教育の振興にご理解、ご協力をいただき、感謝申し上げます。 コロナ禍に伴い、今年度も感染症対策を講じながら事業を行ってきたが、次年度から感染症法上の位置づけが2類から5類に引き下げられる予定であり今後も安全な事業展開を行っていききたい。 本日の会議では、社会教育委員が出席された研修会等の報告と「令和5年度社会教育の努力目標（案）」についてを議案としている。 本市の社会教育に対してそれぞれの立場からご意見いただくようお願いする。</p>
社会教育振興課長	<p>本日の会議は、9人中6人の委員に出席をいただいております、茨木市社会教育委員条例第6条第3項の規定により、会議は成立している。同条例第5条第2項に基づき、議事進行は三川議長にお願いする。</p>
三川議長	<p>令和4年度 第2回「茨木市社会教育委員の会議」を開会する。 感染症対策として、会議時間短縮のため、簡潔に議事を進めていきたいので、ご協力をお願いします。</p> <p>本会議は、平成30年度第1回社会教育委員の会議において、「公開」と決定している。また、ホームページや情報ルーム設置の会議録の内容については、議長に一任とさせていただく。</p> <p>案件、「今年度の社会教育委員の活動」について、事務局から説明をお願いしたい。</p>
社会教育振興課長	<p>今年度の社会教育委員を対象にした研修会の概要を報告する。 令和4年9月2日、奈良県で近畿地区社会教育研究大会が行われ、本市からは三川委員、稲田委員、小河委員、森脇委員に参加いただいた。 また、令和4年12月9日に行われた大阪府社会教育委員活性化セミナーには、小河委員、桑本委員、藤田委員、森脇委員に参加いただいた。</p>

<p>三川議長</p>	<p>なお、令和5年2月22日には大阪府社会教育振興協議会北ブロック研修会が開催され、小河委員と森脇委員が参加予定である。</p> <p>各事業に出席した委員からご報告をいただきたい。</p>
<p>小河委員</p>	<p><b>【奈良県近畿地区社会教育研究大会報告】</b></p> <p>第4分科会 学校・家庭・地域の協働に参加した。</p> <p>兵庫県加東市の職員から、地域子ども教室の取り組み、充実した活動に向けての具体的な取り組み、子どもの居場所づくりや多様な地域の人との関わりなどの取り組み例と、コミュニティ・スクールにおける地域学校協働本部の連携についての発表があった。</p> <p>コミュニティ・スクールにおいては地域と学校、その間に入るコーディネーターの三者の関係性が重要であるとの話があったが、自分の地域では、学校運営協議会が組織されており、地域とは公民館を始めとした地域組織との連携を取るために試行錯誤をしながら前へ進めているところである。</p>
<p>三川議長</p>	<p>私も同大会に参加したので報告をさせていただく。</p> <p>午前中の記念公演では、「社会教育には今、何が期待されているのか」を演題として、文教大学人間科学部・人間科学研究科教授の金藤ふゆ子氏から講義と提言がなされた。</p> <p>中央教育審議会の答申をふまえ、地域学校教育活動の法的根拠、「地域全体で未来を担う子供たちの成長を支える仕組み」、地域学校協働活動の具体例や、地域学校協働本部の整備状況とコミュニティスクールの状況について紹介があった。</p> <p>講演の結びには、「地域の多様な主体との連携・協働による学び合い・支え合いは地域全体を活性化する。社会教育関係者はその連携協働に必要なネットワークづくりのキーパーソンであるので、社会教育関係者は、それぞれの得意分野や知識・技能・経験を活かして活動し、市民と行政をつなぎ、地域の多様な主体をつなぐ架け橋になって頂きたい。」と期待を述べられた。</p> <p>午後の分科会は、分科会3「ボランティア」に参加した。</p> <p>和歌山県岩出市の地域学校協働活動におけるボランティア活動の状況について、中学校長で岩出市社会教育委員の高幣泰男氏から報告があった。報告の中では、岩出市の概要、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の歩みを紹介された後、令和3年から4年にかけての</p>

<p>桑本委員</p>	<p>同中学校における地域からの協力活動や地域に向けた活動が紹介され、これまでの課題と今後の展望についても言及された。</p> <p>その一方で、生徒や学校の方に重点が置かれ、地域学校協働活動の本来の主旨とはやや離れた印象があったため、学校教育を補助するだけのボランティア活動になっていないかなどという厳しい質問もなされていた。</p> <p><b>【大阪府社会教育委員活性化セミナー報告】</b></p> <p>午前の講演「地域の防災活動と社会教育」～誰もが＜助かる＞社会に向けて～をテーマに、大阪大学大学院人間科学研究科 教授 渥美公秀氏が講演された。講演では、10年前と現在との災害死亡率は変わっておらず、中でもハンディキャップのある人などの避難訓練の重要性と難しさについて述べられていた。また、災害現場では人に寄り添ってそばにいてもボランティア活動であるという言葉が印象に残った。グループディスカッションでは他市の取り組みなども聞くことができ参考になった。自分の地域に置き換えると難しいものもあるが、地域での協力者を増やしながら防災の取組を行うことは大切だと感じた。</p>
<p>三川議長</p>	<p>以上の報告に対して意見はあるか。</p> <p><b>&lt;意見なし&gt;</b></p>
<p>三川議長</p>	<p>次の案件に入る。案件「令和5年度社会教育の努力目標について」は、事前に資料を送付し、各委員からの意見を頂戴した。各委員からの質問・意見と所管課からの回答を取りまとめた資料、それらを反映した「令和5年度社会教育の努力目標について（案）」を、会議資料として配布している。事務局から概要を説明後、各委員からご意見等をお願いしたい。</p>
<p>社会教育振興課長</p>	<p><b>【令和5年度社会教育の努力目標について】</b></p> <p>「令和5年度社会教育の努力目標（案）」について主な変更点を申し上げます。赤字が令和4年度からの変更点となり、主な変更点は次のとおりである。</p>

- ・令和5年11月に開館予定である文化・子育て複合施設「おにクル」内において「おにクルぶっくぱーく」を開館し新たな図書サービスを展開する。
- ・文化施策について、その方向性を示した文化振興ビジョンの改訂を行う。
- ・スポーツ施策については、茨木市スポーツ推進計画が改訂され、施設の適正化と整備などにより、さらなるスポーツ機会の充実に努める。
- ・青少年野外活動センターのキャンプ事業の内容について修正を行った。

以上を反映させたものを案として各委員に送付し、事前に意見をいただいた。その上で、意見と対応をまとめた資料と青字で追記した努力目標（案）を作成し本日配付させていただいた。具体的な修正箇所は、次のとおりである。

- ・ 1 ページ下段

『図書館については、「おにクルぶっくぱーく」を開館し、引き続き「本が好きなまち・茨木」をめざす。あらゆる年齢層の市民が自ら学び、自由に知識を得ることができる身近な情報拠点として、市民の求める資料や情報を積極的に収集し、「市民のくらしに役立ち、誰もが気軽に利用できる親しみやすい魅力的な図書館」を目標に、資料・情報の提供をはじめ、多様な図書館サービスの充実を図る。』に内容を修正。

- ・ 2 ページ 4 行目

『新たな文化振興ビジョンの素案を作成する。』を『文化振興ビジョンを改訂する』に修正。

- ・ 2 ページ 10 行目

『スポーツ施策については、「茨木市スポーツ推進計画（改訂版）」に基づき、大きく3点について取り組む。スポーツ施設については、スポーツ活動の動向やニーズを勘案し適正化と整備に努める。新型コロナウイルス感染症対策については、新しい生活様式でも実施可能なスポーツ活動を進める。競技スポーツの推進については、シビックプライドの向上や子どもたちのスポーツへの関心を高めるため、トップアスリートへの競技活動支援やトップアスリートによるスポーツ教室などに取り組む。』に内容を修正。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2 ページ中段 『人権啓発リーフレットを活用した性の多様性への理解促進など』を追記。</li> <li>・ 4 ページ中段 項番 6 『青少年野外活動センターの項目の中で、少人数・短時間のキャンプ事業等実施するほか』を『教育ニーズに応じたキャンプ事業等を実施するほか』に修正。</li> <li>・ 5 ページ下段 図書館活動の推進について 項番 6 『中条図書館を文化・子育て複合施設「おにクル」に移設し、「おにクルぶっくぱーく」として開館し、より多くの市民に利用していただけるよう、複合施設の特性を活かし、関係機能と連携し、新たな図書館サービスを展開する。』に修正。</li> </ul> <p>令和 5 年度社会教育の努力目標（案）にかかる修正等については以上である。</p> <p>また、地域学校協働活動に関わる取り組みについて、ご意見をいただいた。同活動については、各校区において自治会・公民館・育成者・PTA等の関係者で構成する組織が結成され、学校と連携し活動している。その推進にあたり、本部を設置し同推進員を委嘱することが有効とされていることから、設置及び委嘱に向けて検討していく。</p> <p>他にも努力目標ほか社会教育関連に関する意見については、資料に記載のとおりであるが、意見をふまえ関係課と連携して取り組んでいく。</p>
三川議長	以上について意見はあるか。
小河委員	<p>社会教育の組織について、公民館も社会教育を担っている。地域においては、まちづくり協議会や地域協議会などそれぞれの組織との調整が必要であるが、実態としては連携が難しい側面もある。</p> <p>公民館は全校区に存在するので地域に積極的に関わっていくべきだと考えている。研修報告にあった防災の研修会についても、一見社会教育とは遠いように思ったが、地域とのつながりという視点では、重要なものであると感じた。</p>

<p>教育長</p>	<p>地域協議会をはじめ、福祉や地域防災など、地域の組織は多様であるため、日ごろから地域の連携は重要であるが、コロナ禍において地域活動が縮小したこともあり、一層地域の連携コミュニティの構築を進める必要があると感じている。</p> <p>地域ごとに組織や関わり方には違いがあることから、地域の実態に合った形で連携を進めていただききたい。特に、子どもたちもコロナ禍においていろいろな地域活動が制限されてきたため、大人から地域の子どもの様子が見えなくなっているという側面もある。大人の関係に加え子どものことも視野に入れて、地域で取り組みを進めていただきたい。</p>
<p>岩城委員</p>	<p>先日、校長として地域防災会に参加した。その際地域の方が集まって、地域の実態に踏まえた防災マニュアルを作成されていた。地域の大人が地域のために連携して頑張っている姿は、子どもたちにも伝わる。こういったことも社会教育であると感じた。学校と地域との連携の重要性については教職員にも伝えていきたいと思う。</p>
<p>古川委員</p>	<p>こども会では会員数が減少しているという問題があり、その理由として地域との連携が難しいという側面がある。公民館や自治会など地域との関係性が深まってくると地域での仕事が増えていき、こども会の負担が増加することが主な理由となっている。また、個人情報の関係で、学校から地域に子どもたちの情報があまり入ってこず、地域の子どもの様子を地域で把握しにくいという傾向にもある。</p>
<p>三川議長</p>	<p>防災の面では、子どもたちを守るということも地域の大きな役割になる。地域で連携し子どもたちのことを把握することも重要であると考えている。</p>
<p>桑本委員</p>	<p>地域によって事情は異なると思うが、PTAについてもコロナ禍において保護者同士の集まりが制限されたこともあり、十分に機能しきれていない面がある。PTAは任意加入であり、入会しない人も増えてきており運営が難しい状況にある。子どもたちにしわ寄せがいかないように、学校や地域と話し合いを行いながら連携を進めていく必要性を感じている。</p>

<p>教育長</p>	<p>コロナ禍ではICT活用も進めてきたが、学校と保護者が連絡をとりやすくなった反面、休校の情報など地域の方には学校の状況が分かりにくくなったという面もある。PTAや自治会に入らない人も増えてきており家庭と学校・地域との関りが希薄になりつつあるため、学校・地域・家庭をつなぐコーディネーターの存在が必要になっている。</p> <p>防災面だけでなく、コロナ禍が収まってからもマスク着用にかかる任意性なども地域活動における新たな課題になってくることも予想されるので、学校・地域・家庭の関係性を一層深めていく必要がある。</p>
<p>今西委員</p>	<p>まず、茨木市の努力目標は非常に丁寧に作られている。その上でいくつか意見を申し上げる。</p> <p>コロナ禍の取組についてだが、社会教育の基本は対面教育における学び合いにある。コロナ禍においては活動が制限された部分もあるが、ICTの活用や対面要素を残したハイブリッド型の取組などを工夫して行われていたので、文脈に盛り込んでも良かったと思う。</p> <p>また、青少年の野外活動においては本市にキャンプ場があることから、対面での実体験が行える環境があったことも重要である。</p> <p>公民館においてはコロナ禍で30代・40代の学習者が増加しているという面もあった。テレワークやICT化が進むことで職業的な学びが増加しており、社会教育施設の存在は子どもだけではなく大人に対しても有効であることが分かる。</p> <p>コミュニティ・スクールにおいては、学校運営協議会が核となるが、これを支えるのは地域であり社会教育である。子どもを支えるという目的のために地域の大人がネットワークを構築することが必要である。私としては公民館がその中心になるのが望ましいと感じており、将来的には地域の住民がコーディネーターを務められることを期待している。ただ、茨木市のコミュニティ・スクールの状況は全国的にも優れた取り組みだと感じている。</p> <p>最後になるが、障害者の社会教育として障害者を支援する方への取り組み並びに障害者自身の社会教育の取り組みについてこれから考えていく必要があると考えている。</p>
<p>三川議長</p>	<p>各委員の貴重なご意見に感謝する。事務局から意見はないか。</p>

教育総務部長	<p>それぞれの立場から、現状の報告と意見をいただき感謝する。</p> <p>コミュニティ・スクールへの取り組みについては、これから委嘱等の動きを進めていくため現段階では明記していないが、今後に向けて充実させていく意向である。</p> <p>青少年野外活動センターにおいては、青少年だけでなくいろいろなハンディのある方の受け入れを行っているほか、引きこもりの方などの受け入れなども検討しているところであり、今後に向けて具体的に明記していくことができると考えている。</p>
三川議長	<p>他に意見はないか</p> <p>&lt;意見なし&gt;</p>
三川議長	<p>それでは、提示した案を骨子として、文言修正については議長一任とし「令和5年度社会教育の努力目標」として決定して良いか。</p> <p>&lt;異議なし&gt;</p>
三川議長	<p>決定した「令和5年度社会教育の努力目標」については、年度当初に委員の皆様へ送付する。</p> <p>その他、事務局から連絡事項等はあるか。</p>
事務局	<p>今後の会議・研修会にかかる連絡を行う。</p> <p>2月21日に大阪府社会教育委員連絡協議会第2回理事会が開催され、三川議長が出席予定である。また、2月22日に大阪府社会教育振興協議会北ブロック研修会が開催され、小川委員・森脇委員が出席予定である。</p>
三川議長	<p>以上で、本日予定案件は、すべて終了した。</p> <p>これをもって、令和4年度第2回茨木市社会教育委員の会議を閉会する。</p>